

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①探求的な学習活動を通して科学的リテラシーと国際性を育成する教育課程を編成する。 ②生徒の主体的、協働的な学びへの授業改善を組織的に進める ③特別活動等への生徒の主体的な取組みを推進する。	①SSH及び理数教育推進校として主体的な探究活動を組織的に推進し、理数及び国際性への関心を高める。 ①アカデミの充実とPrincipiaⅢまでの教育課程編成を行う。 ②「主体的・対話的で深い学び」への授業実践に取り組み、論理的思考力を育成する。	①主体的な課題設定・探究活動のための指導方法を研究・実践する。 ①グローバル教育を推進するとともに、科学コンテストへの出場機会を増やす。 ②学力向上ワーキングを組織し、授業改善研修会を年5回以上開催する。 ②授業の質・量の向上のため、教科会を活性化させる。	①SSH評価により生徒の探究活動への関心、主体的取組みが向上したか。 ①グローバル教育の機会が増えたか。 ②学力向上ワーキングは機能したか。 ②授業改善研修会を年5回以上開催したか。 ②授業改善のための教科会回数は増えたか。	①SSH指定1年目と2年目(H29年度)の1・2年生2学期末比較で「論理的思考力」「創造的思考力」「科学リテラシー」が、H29年度1年生4月と12月比較で「国際性」が大きく伸張し、「論理的思考力」「科学リテラシー」の項目が高水準で維持された。グローバル教育、科学コンテストへの出場機会は増加した。PrincipiaⅢの教育課程編成を終了した。 ②学力向上WG先導により授業改善研修会を年7回実施。研究授業にあたり、各教科会で活発な意見交換がなされた。	①研究開発課題に効率よく取り組むため、分掌・教科・委員会・ワーキンググループ・部活動等の組織編制の構築。 ①課題研究に関して職員全員体制を維持・推進するため、課題研究スタンダードを設定する。 ①SSHの研究開発課題、各プログラムを相互連携する。 ②表現する(書く、発表)学習活動を実施する。 ②家庭学習時間を確保させるしくみをつくり、知識活用の授業を行う。	①課題研究のプログラム開発は横須賀高校の特徴を生かして推進しているため、今後一層推進を期待する。 ②教科会の活性化により、組織的な授業改善を進めてほしい。 ②家庭学習時間の充実の仕組みを、部活動、特別活動の側面のみならず、教科指導・授業改善の面から検討することが大切である。	①PrincipiaⅡの継続研究において主体的・発展的な探究活動が向上した。SSH2年目となり、論理的思考、創造的思考、科学リテラシー、国際性の育成に効果が出ている ①横高アカデミの発展・融合、PrincipiaⅢの教育課程編成など全校運営体制の構築と指導力向上研修が課題である。 ②授業研究会を多角的に7回実施し、目指す学力の認識は統一された。指導の具体項目と指導力向上研修の継続が必要である。	①SSHの全校運営体制を実践。課題研究指導力向上研修と「課題研究横高スタンダード」の整備。研究開発課題の核プログラムの相互連携強化。 ②「深い学び」の指導研究のため、教科会を活性化させる。表現(書く、発表)学習活動を充実させるための教科指導を行い、知識活用型の授業を行う。
2 生徒指導・ 支援	①個々の生徒に応じた支援体制の充実を図る。 ②部活動を通して生徒の生きる力を育成するとともに、学習・進路活動との調和を図る。	①生徒の情報共有及び生徒への支援を組織的かつ迅速に行う。 ②部活動と学習とのバランスをとれるように自己マネジメント力を育成する。	①定期調査の集計、対応を迅速かつ組織的に行う。 ①日常的に情報共有を迅速かつ組織的に行い教育相談フローを効果的に活用する。 ②部活動と学習時間バランスを把握する。	①定期調査は迅速かつ組織的にフィードバックできたか。 ①教育相談フローのコア会議等を活用できたか。 ②アンケート調査結果で部活動と学習のバランスが取れたか。	①定期調査は組織的にフィードバックしたが、円滑な循環には至っていない。 ①ケース会議を3回開催し支援が必要な生徒の情報を組織的に共有した。 ②各部が週単位で休日を設定し、学習時間を確保した。夏休休業中の体育祭準備時間をルール化し、生徒の学習時間を保障した。	①生徒の相談状況を迅速に把握し、適時にケース会議を開催し、組織として生徒情報を共有したい。 ②来年度も部活動時間や行事の準備期間を合理的に配分し、学習時間を保障する。	①いじめの問題は全国的に問題となっている。早期発見に向けて随時相談できる体制をとるとよい。 ②部活動、学校行事等と学習時間のバランスは生徒・教員にとって重要である。適正な調整が必要。	①定期調査の組織的フィードバックは行ったが、さらに迅速なまとめと推進が必要である。学年会からの情報、個々の事案はコア会議が有効に機能し、迅速かつ継続的な支援につながっている。 ②部の週休1日、体育祭練習時間調整を推進し学習時間とのバランスを確保できた。	①生徒支援の教員研修を開催し、支援知識、スキルを向上させる。コア会議を活性化し、調査の組織的対応を迅速に行う。 ②部の週休2日、文化祭準備期間・時間の調整を進める。
3 進路指導・ 支援	①生徒が社会との関連の中で、自らのキャリア発達を主体的に考える指導の充実を図る。 ②生徒の第一志望実現に向けた進路指導体制の充実を図る。	①進路について早期から考えさせる指導を行う。 ②学力向上と進路指導のリンクを図る。 ②土曜講習、各セミナーを効果的に設定し、受講者を増やす。 ②模擬テスト、志	①社会人講話(未来ナビ)の対象を学年全体とし学校行事に位置づける。 ②教科スタンダードを作成し、進路実現につなげる。 ②講座目標を志望系統別など明確化し、受講者を増やす。講習後の学力伸長を検証する。	①未来ナビの生徒の満足度は70%以上であったか。 ②教科スタンダードと進路実現の関連を検証する。 ②目標を明確にした講座の設定数、受講者数、学力伸長(模擬試験等)の検証。	①未来ナビの満足度は91%で、キャリア形成能力の育成に効果的であった。 ②教科スタンダード初年度として各教科の指導に対する意識が高まった。 ②目標にそって講座を設定することで、昨年より多くの講座が設定でき、のべ約1500名が受講した。生徒個人の学習態度の改善につな	①事前事後の指導を精選し、キャリア意識の一層の育成につなげる。 ②今年度の取り組みをもとに教科スタンダードを改善し、進路実現につながる実践をめざす。検証方法について検討する。 ②講習内容を充実させ、参加者を増やす。	①未来ナビは、卒業生の協力でキャリア教育を推進していることは評価できる。人的資源を大いに活用するとよい。 ②進路実現のためにも、部活や学校行事、塾と家庭学習時間との	①未来ナビを2年生全員に開催し効果があった。教科スタンダードはより現実的に指導に生かす工夫が必要。教科として育成する学力水準と進路実現との関連性を厳密に検討していく必要あり。 ②土曜講習、夏期講習等の受講人数が増えた。各講座	①未来ナビの効果的、合理的運営体制。H29年度末にスタートした医療系ゼミの継続。 ②土曜講習、夏期講習、セミナーの連携を計画し、生徒の年間通じての学習支援に一貫性、継続性をもたせ

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			望、学習指導のリンクを図る。	②模擬テスト、志望を全職員で共有し、教科会で指導方法を検討する。	②分析、志望の共有回数、検討のための教科会回数。	<p>がった。</p> <p>②試験後に教科で検討会(3回)を行い、授業改善に活かした。</p> <p>①②卒業生の協力により大学進学サポート(医療系)をスタートさせた。</p>	<p>②模擬試験を学力測定の重要な手段とし、学習目標の設定や授業実践の改善につなげる動きをさらに進める。</p> <p>①②他の専門職への進学サポートを検討し、同企画を拡充する。</p>	<p>バランスは重要である。進路実現・学習指導が学校の使命であるので優先課題と捉え、改革してほしい。</p>	<p>の効果的関連を図る必要がある。</p> <p>②模擬テスト、各ガイダンス、面談、学年集会等の効果的関連と、教員研修が必要である。</p> <p>②進路実現のために部活動、学校行事との時間バランスをさらに推進する必要がある。</p>	<p>る。</p> <p>②進路指導計画の各項目ごとの効果的連携とねらいの明確化、レッスンクラス、特別クラスとの関連など学習指導との関連を強化する。</p> <p>②模試の教員研修を定例化する。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域等との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>②地域の教育力を活用するとともに、地域に貢献する教育活動を充実させる。</p>	<p>①生徒の地域活動への参加を活性化させる。</p> <p>②SSHの活動を通じて、科学やグローバルへの関心を伝える活動を行う。</p>	<p>①地域活動のフィールド、参加人数を増やす。生徒の企画を促す。</p> <p>②SSH委員会(生徒)を発足し、普及活動の企画・運営を行う。</p>	<p>①地域活動への参加人数、機会は増えたか。生徒企画はできたか。</p> <p>②地域への普及活動の企画・運営はできたか。</p>	<p>①毎月公郷小学校で行われる「あいさつ運動」に運動部部員を参加させたため、年間で200名近くの生徒が地域活動に貢献できた。</p> <p>②衣笠中学校・科学部共同実験会(1回)</p> <p>②学校説明会で学校生活を英語で紹介(2回)</p> <p>②SSH特別プログラム</p> <p>A 科学部・実験教室(3回)</p> <p>B 英語同好会・国際プログラム(1回)</p> <p>②SSH実験教室</p> <p>A 城北小(1回)</p> <p>B 春光学園&amp;大津中学(1回)</p>	<p>○今年度の取り組みの手法を生かし、定着させ、拡大するとともに、あらたな企画を試行する。</p>	<p>①図書室を地域開放するなど検討してみてもどうか。</p> <p>②SSH内外での地域貢献、連携は生徒にとっては成果の表現と課題の認識に役立ち、学校理解への一助となる。</p> <p>より広い視野で目的を広げていくことも検討してよいのではないかと。</p>	<p>①継続している地域活動については、参加生徒の人数拡大と組織化を行った。また、警察と連携し継続しているボランティア活動では社会団体から表彰を受けた。</p> <p>①SSHにおける理科、英語の小中学生・地域への貢献活動では、新規に4回、継続は2回、学校説明会での活動拡大等生徒の意欲が高まっている。</p>	<p>①SSH外の地域連携では、対象生徒、部活等が重複しないように継続性を持たせた参加形態を検討する。</p> <p>②SSH関連の連携は、横須賀市に域を広げ、地域重点枠での開催とともに、高校対象も開拓したい。市民対象の「みんなの理科FES」への貢献度を上げたい。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>すべての職員が教育環境の変化に柔軟かつ迅速に対応し、積極的に課題に取り組む組織づくりを進める。</p>	<p>①学習環境の美化、整備を進める。</p> <p>②ICT教育環境の整備を推進する。</p> <p>③校内外の情報共有を活性化させる。</p>	<p>①日常の校内美化活動、環境整備を活性化させる。</p> <p>②サイエンスルームの活用、整備を推進する。</p> <p>③HP等による情報発信を活性化させる。</p>	<p>①教室、部室等の美化活動、環境整備は進んだか。</p> <p>②サイエンスルームの活用は目的に沿ったものであったか。</p> <p>③HP更新回数は増えたか。</p>	<p>①教室前廊下壁の塗装、部室扉の修理、部活動の日による清掃活動等を実施した。</p> <p>②サイエンスルーム内壁のホワイトボードの活用、タブレットPCの運用規定整備による活用活性化。</p> <p>③HPに特色ある教育活動のページを作成し、活動記録を更新した。</p>	<p>①全ての部室扉に鍵が掛るようになったが、扉自体の修理ができない為、将来的に抜本的な見直しが必要。</p> <p>①今後も定期的にポイントを決めて継続的な美化活動を実施する。</p> <p>②H30年度はSSHの活動が全校生徒に及ぶため探求・研究活動ができる教室を確保する。</p> <p>③校内・校外活動を早目にHPに掲載できるように、記録等を保存できるフォルダを整備する。</p>	<p>①環境整備のための清掃用具購入など私費の効果的な活用は歓迎する。今後も積極的に検討・提案してほしい。</p>	<p>①掲示板、廊下等の環境整備、部室周りなどの整備を組織的に行った。施設老朽化により、修繕可能なレベルに限られ、抜本的な改善に至っていない。学校の努力だけでは立ち行かない。</p> <p>②サイエンスルームとICT機器の整備・管理・使用環境を検討継続する。活動教室の増加も必要である。</p> <p>③広報はHP掲載フローを整備したが、活用に課題がある。</p> <p>③事故・不祥事防止を徹底した。</p>	<p>①引き続き教室、部室、パブリックスペースの環境整備を推進するとともに、普段の清掃活動、部活の日の清掃・整理等環境美化を徹底する。</p> <p>②クラス増、SSH対象学年の拡大に伴い、教室、研究活動室の確保・整備を推進する。</p> <p>③HPの活性化、ICT機器整備に伴う管理体制・使用規定の徹底と活用研修が必要である。</p>